

エグゼクティブガイド

未来を築く：

エンタープライズAI時代に向けたモダナイゼーションガイド

NUTANIX

AIは次世代ITインフラを支えるモダンなプラットフォームを必要としています

- 01 レガシーなプラットフォームがイノベーションを阻害するとき
- 02 モダナイゼーションの定義：あらゆる場所で、あらゆるものを実行
- 03 AIのビジョンと現実のギャップを埋める
- 04 ハイブリッド・マルチクラウドは共に成長する基盤となる
- 05 変動するIT環境における信頼のギャップ
- 06 モダナイゼーションがもたらす成果：
- 07 自分の条件で未来を築く

AIインフラストラクチャーへの支出*

- 世界の AI インフラストラクチャー支出は 2029 年までに 7,580 億ドルに達すると予測されており、歴史上最大規模のコンピューティング構築を記録する見通しです。
- **84.1%** を **86.7%**。
- 米国は **76%** の世界AIインフラストラクチャー支出を占めていますが、成長率では中国が最も高く、5年間の年平均成長率(CAGR)は**41.5%**に達しています。

*IDC: AIインフラストラクチャーの支出は2029年までに7,580億米ドルに達する見込み

01

レガシーなプラットフォームがイノベーションを阻害するとき

AIは私たちの働き方を再定義しています。かつては数ヶ月かかっていたことが、今では数分で実現するかもしれません。データの移動が速くなり、インサイトがより早く得られ、このスピードを武器にする競合他社は、他が追従できないほどのペースを生み出しています。

変化に遅れまいとするプレッシャーは強烈です。経営層は、エージェントAI、自動化、データ主導のインテリジェンス、その他の革新的なテクノロジーの可能性を確信しています。

しかし、その可能性を解き放つためには、一つの決定的な要因があることに気づいています。それは、次世代のITインフラストラクチャーを支えることができる、安全でレジリエント、かつ柔軟なプラットフォームです。

今日のレガシーインフラストラクチャーは、もっと緩やかで予測可能なビジネスのペースに合わせて構築されたものでした。硬直化したアーキテクチャ、サイロ化されたシステム、そして高額なメンテナンスコストは、市場が求めるスピードでのイノベーションを困難にします。AI、データ分析、デジタルサービスといった新しい取り組みが加わるたびに、すでに限界まで追い込まれている環境やITチームにさらなる負荷を強いることとなります。

結果として、インフラストラクチャーのモダナイゼーションはビジネス上の最優先事項となっています。今行動を起こす組織が次の10年のイノベーションを定義し、躊躇する組織は取り残されるリスクを負うことになるでしょう。

02

モダナイゼーションの定義：あらゆる場所で、あらゆるものを実行

モダナイゼーションとは、必ずしもすべてをゼロから作り直すことを意味するわけではありません。その本質は、ビジネスが必要とするあらゆる場所で、あらゆるインフラストラクチャー上のあらゆるアプリケーションを実行できる、自由度と柔軟性を備えたプラットフォームを手に入れることにあります。

モダンなプラットフォームは、オンプレミス、パブリッククラウド、そしてエッジ環境を単一の管理ファブリックへと統合します。これにより、管理の複雑さが解消され、コストの予測可能性が高まり、どこでも一貫したパフォーマンスを維持できるようになります。

この「あらゆる場所で実行できる」という考え方は、ITチームに確かな制御権を、そして経営層には揺るぎない自信を与えます。自らのペースでモダナイゼーションを進められるため、将来のテクノロジーに向けた基盤を整えつつ、今日のビジネスの現実に合わせてレガシーアプリケーションを適応させていくことが可能です。

また、モダナイゼーションにおける最大の懸念事項の一つである「リスク」も大幅に軽減されます。インフラストラクチャーがオープンで適応性に優れていれば、戦略的な転換も容易になります。レガシーアプリの移行や、中断のない新サービスのスケールアップ、さらには新市場への展開を、困難や混乱を最小限に抑えながら実現できるのです。

「私たちにとって最も重要だったのは『柔軟性』です。既存のインフラ上で確実に動作し、ビジネスの拡大に合わせて成長でき、かつ他のエンタープライズパートナーとも円滑に連携できるソリューションを求めていたのです。」

クレイグ・ハフステドラー氏

エドワード・ジョーンズ社、PaaS (Platform-as-a-Service) 担当チームリーダー

03

AIのビジョンと現実のギャップを埋める

モダナイゼーションが組織の進化そのものであるならば、AIはそれを加速させる強力な触媒です。AIほどインフラのモダナイゼーションに緊急性をもたらし、同時に大きな機会を生み出したテクノロジーは他にありません。

しかし、「AI対応 (AI-ready)」であることと、最大限の価値を引き出すためにAIを効果的に実装することの間には大きな差があります。AIの取り組みでモデルの構築に注力する組織もありますが、それを支えるインフラを構築することも同様に重要です。

AIイニシアチブが即座に価値を提供するためには、安全でレジリエント、かつ柔軟なインフラが必要です。これらは、ハイブリッド環境全体でのデータへのシームレスなアクセスと、オンデマンドでリソースを拡張できる能力に依存しています。インフラがサイロ化していたり旧式であったりすると、AIワークロードは高コストで非効率、かつ柔軟性に欠けるものになってしまいます。

一方で、モダンなインフラを支えるプラットフォームは、これらの課題を利点へと変えます。ハイブリッド・マルチクラウドモデルによって、オンプレミス、クラウド、エッジ環境を単一の運用ファブリックに統合することで、AIワークロードを従来型のアプリケーションと共に、安全かつ効率的に、そして大規模に稼働させることが可能になります。

04

ハイブリッド・マルチクラウドは共に成長する基盤となる

モダナイゼーションが目標でありAIが主要な推進力であるならば、それを現実にする手段がハイブリッド・マルチクラウドです。パブリッククラウド、プライベートクラウド、オンプレミス、あるいはエッジのどれか一つだけで、ビジネスのあらゆるニーズを満たすことはできません。

ハイブリッド・マルチクラウドアプローチにより、クラウド、オンプレミス、エッジの各拠点間で、アプリケーションとデータを管理し、移動させることができます。

これにより、各ワークロードを最適なパフォーマンスが得られる場所に配置しつつ、どこでも一貫したセキュリティと管理を維持できる柔軟性が得られます。クラウドで弾力的にスケールし、機密データはコンプライアンスのためにオンプレミスに保持し、即座の意思決定のためにエッジでデータを分析することが可能です。

このモデルは、AIの導入が進む中で特に重要になります。クラウドでモデルをトレーニングし、エッジでそれらを展開するには、それらすべてを繋ぐ統合プラットフォームが必要です。ハイブリッド・マルチクラウドにより、コスト、ガバナンス、データ主権を制御しながら、それを可能にします。

同様に重要なのは、選択の自由を守ることです。特定のベンダー、場所、あるいは一つのテクノロジーに縛られることはありません。この独立性こそが、イノベーションを守る究極のセーフガードとなります。

05

変動するIT環境における 信頼のギャップ

柔軟性と制御のために組織がハイブリッド・マルチクラウド戦略へと移行する中で、新たな課題として「信頼」が浮上しています。

テクノロジー業界そのものが常に変化しており、長年続いてきたベンダーのモデルや優先順位が変わることで、不確実性が増しています。

この傾向が最も顕著なのがレガシーな仮想化の分野です。所有権、ライセンス、そして製品サポートの変化が、業界が長年抱いてきた期待を再定義しています。

かつて予測可能なロードマップと安定した契約に依存していた企業が、突然のコスト上昇、サポート期間の短縮、そして不透明なイノベーションの道筋に直面しています。

これらの変化は信頼の低下を招いています。重要なプラットフォームの価格設定、ライセンス、サポートを予測できなければ、長期的な計画を立てることは不可能です。CIOやCFOは、本来必要としている長期的な透明性ではなく、短期的な決断を強いられています。

多くの組織がいま、岐路に立たされています。不確実性を生むモデルへの投資を続けるのか、それとも透明性、予測可能性、そして信頼を重視するテクノロジーパートナーへと舵を切るのか。

信頼できるパートナーは、単なるテクノロジー以上のものを提供します。それは、透明性が高く、予測可能で、プロアクティブなビジネスパートナーシップです。隠れた目的や予期せぬコスト、そして選択肢を制限するようなロックインはありません。お客様自身がインフラをコントロールし、将来に自信を持てるようにすることが重要です。

適切なパートナーは、オンプレミス、クラウド、エッジのどこでもアプリケーションとデータを実行できる、効率的でモダンなインフラの構築と展開を支援し、次世代のビジネスに不可欠なアプリケーションを強力に支えます。

06

モダナイゼーションがもたらす成果

モダナイゼーションは、ビジネスのあらゆる側面に測定可能なインパクトを与えます。その可能性は、IT 管理を劇的に簡素化しパフォーマンスを強化するだけでなく、リーダーが組織の競争力を維持するための計画、投資、戦略のあり方を向上させます。

イノベーションの加速と価値実現までの時間の短縮

新製品、デジタルサービス、そして AI イニシアチブを、数ヶ月ではなく数週間でコンセプトから展開へと進めることができ、市場の変化に先んじることができます。

財務効率と予測可能性の向上

運用を統合することで複雑さを軽減し、無駄なライセンスやオーバーヘッドを排除します。これにより、コストの透明性が高まり、コントロールが可能になります。

レジリエンスの向上とリスク管理

自動化されたリカバリ、統合されたセキュリティ、そして環境間での一貫したガバナンスにより、アップタイム、コンプライアンス、および組織の評判を保護します。

データ主導のよりスマートな意思決定

モダンなインフラストラクチャーは、運用データを戦略的なビジネスインテリジェンスへと変換するのを助け、より迅速な洞察と強力な競争優位性をもたらします。

組織の俊敏性の強化

柔軟なインフラストラクチャーと権限を与えられたチームにより、業務を中断することなく、新しい機会を捉えるために迅速な方向転換が可能になります。

モダナイゼーションがもたらす最も重要なメリットは、予測不能な世界においても、自社のビジネスが自在にスケールし、適応し、リードし続けられるという「確信」を得られることです。

07

自分の条件で未来を築く

次の10年をリードする組織は、今日モダナイゼーションを進める組織です。それらの組織は柔軟性を求め、簡素化のために運用を見直し、長期的に信頼できるテクノロジーパートナーとの関係を再構築しています。

モダナイゼーションは、クラウド、オンプレミス、エッジを真に統合し、次に何が起きても対応できる基盤プラットフォームを選択することから始まります。

生成 AI やエージェント AI の出現により、すべての環境における高速なデータアクセス、スケーラブルなコンピューティング、および統合管理の必要性はさらに緊急性を増しています。

ハイブリッド・マルチクラウドはこのビジョンを現実に変え、組織がそれぞれのワークロードを最もパフォーマンスを発揮できる場所で、安全かつ効率的に、そして「自らの意思で」実行できる自由を提供します。

未来は、適応できる者の手にあります。使いやすく管理がシンプルで、ビジネスの要求に合わせてスケールできる柔軟性を備え、次世代のビジネスイノベーションを支えるレジリエンスを持った基盤を、今日共に築ける信頼できるベンダーとパートナーシップを組むことが極めて重要です。

このテーマに関するさらなるエグゼクティブインサイトやソートリーダーシップについては、[Nutanix エグゼクティブフォーカス](#)をご覧ください

NUTANIX

contact-jp@nutanix.com | www.nutanix.com/jp | [@nutanixjapan](https://twitter.com/nutanixjapan)

©2026 Nutanix, Inc. 無断転載を禁じます。Nutanix, Nutanix ロゴ、およびここに記載されているすべてのプロダクト名とサービス名は、Nutanix, Inc. の登録商標または商標です。アメリカ合衆国およびその他の国において、本文書に記載された、その他のブランド名は、識別目的のみに使用されており、それぞれの所有者の商標となります。

BuildYourFuture-ExecGuide-Modernizing-Enterprise-AI-Era-R2-FY26Q2-v5_ja-JP-020926